

山と自然のサイエンスカフェ をオンライン開催 Report

テーマ 信州の草原はどのように利用されてきたのか

第一回

2020年12月21日(月)
19:00~20:00 参加26人
話題提供
浦山 佳恵 (自然環境部)

概要 開田高原や霧ヶ峰高原での調査結果をもとに、かつて盛んに行われた草刈りや火入れなどの草原の利用が、生物の多様性にとっても重要であること、地域で受け継がれてきた伝統的な文化としても継承が課題となっていることなどを紹介

テーマ 気候非常事態と長野県の森林

第二回

2021年2月20日(土)
13:30~14:30 参加30人
話題提供
栗林 正俊 (自然環境部)

概要 長野県でも深刻化している気候変動の実態と将来予測、さまざまな影響と対策について解説し、「2050ゼロカーボン」に向けて重要なカラマツ林のCO₂吸収量や森林管理の効果に関する研究成果などを紹介

長野駅ビルでの開催中止

平成26年(2014年)に長野市内で始めた山と自然のサイエンスカフェは、平成28年(2016年)からは長野駅ビルの「りんごのひろば」をお借りして開催してきました。毎回多くの方々にご参加いただき、和やかな雰囲気の中で気軽に意見を交わすことができる場になりつつあり、参加者の方々とともに作り上げてきたイベントだと実感しています。令和2年度(2020年度)も「りんごのひろば」で6回の開催を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止いたしました。楽しみにしていただいた皆様には大変申し訳ございません。

初の試み~オンラインで開催へ

試行錯誤の末にようやく軌道に乗ってきたサイエンスカフェ。このまま中止するのではなく、コロナ禍の中でこそできることがあるのではないかと考え、今流行のオンラインでの開催を検討することに。それまでオンラインの会議や打合せには参加したことがありませんでした。回線は大丈夫? ソフトウェアは何を?



オンライン配信会場の様子(第2回;飯綱庁舎内)

定員は? 受付方法は? 進行方法は??? とさまざまな課題が一気に担当者に押し寄せてきました。「こんなはずじゃなかったのに!」と嘆きつつも、ひとつひとつ解決しながら、というかほとんど見切り発車状態で開催に漕ぎつけました。

通算50回目からのオンライン開催

山と自然のサイエンスカフェの記念すべき通算50回目でもあるオンライン1回目では、信州の草原利用をテーマに、そして、2回目は、気候変動に対する森林の応答をテーマに、それぞれお話しいたしました。



オンライン配信画面(第1回)

2回とも大きなトラブルはなく、遠方の方も含む県内外の方々にご参加いただくなど、オンラインならではの利点もありました。一方で、さまざまな課題もみえてきました。

ネットワーク回線への負荷を減らすために参加者のカメラをオフにさせていただいたため、反応が見えず、話題提供者はやや喋りにくかったようです。また、質問をチャットで受けつけましたが、一回のやり取りで終わってしまうことが多く、サイエンスカフェらしく気軽に語り合うためにはまだまだ工夫が必要だと感じました。

新型コロナウイルス感染症が落ち着くころまでには、現地でもオンラインでも満足していただけるサイエンスカフェを提供できるよう、挑戦は続きます。

(畑中 健一郎/自然環境部)